

宮古の風

～ 新しい風は東から～



学校訪問等で出会う子ども達の笑顔に元気をもらっています。学校生活を支えてくださっている先生方に感謝する日々です。学校公開や研修会等を控える今学期も児童生徒の成長に向けて共に進んでまいりましょう。

文責：永沼竜次

自校の実態に合わせた方策を！ ～R8 年度全国学力・学習状況調査結果から～

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。自校の結果から見えた成果と課題を教職員間で共有し、児童生徒一人一人の「つまずきを生かした資質・能力の向上」に向けた取組を引き続きお願いします。

【教科調査の観点別平均正答率（宮古教育事務所全体）】カッコ内は全国比を示しています。

	小学校・国語	小学校・算数	中学校・国語	中学校・数学	中学校・英語
知識・技能	54.9 (88.6)	50.2 (83.5)	61.1 (95.2)	52.0 (82.5)	59.8 (80.2)
思考・判断・表現	53.4 (88.9)	45.4 (72.0)	63.7 (93.5)	27.0 (68.9)	52.8 (82.1)

算数・数学では、【思考・判断・表現】に、英語では【知識・技能】に課題が見られます。各学校では、課題の改善に向けて「確かな学力育成プラン」を活用しながら以下の視点で授業改善をお願いします。宮古教育事務所では、iACT-R8（学校教育指導指針 P11 参照）の5つの視点を大切にしながら、各学校の学力向上を支援してまいります。

【確かな学力育成に向けた重点的対策】

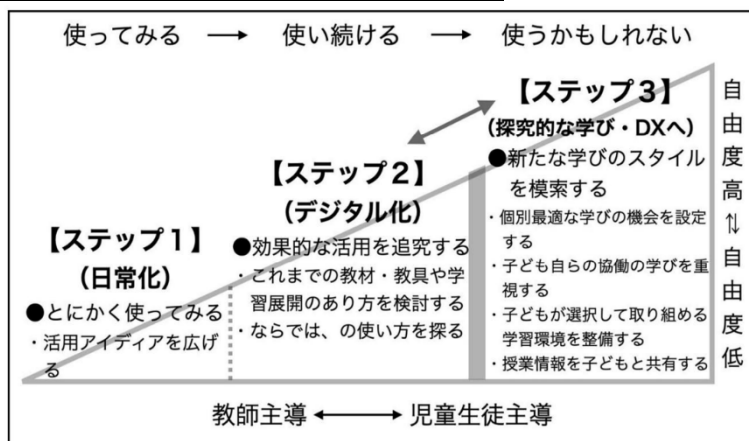
★ 小問分析に基づいた、資質・能力の焦点化・明確化、内容等の重点化、学習評価の充実

「子どもたちにどんな力をつけたいのか」を明確にして、その確認方法（評価問題）を小問レベルで具体的に想定してから単元構想をすることが、とても大切です。

★ ICT活用の一層の推進（右図参照）

児童生徒質問調査とのクロス集計では、授業でPC・タブレットなどのICT機器を「ほぼ毎日使用している」と回答した児童生徒は、各教科の平均正答率が高い傾向が見られました。

県学習定着度状況調査の完全CBT化も見据え、ICT機器の効果的活用をお願いします。



【図 NITS 校内研修シリーズ：学校におけるICTを活用した学習場面 より】

組織的な対応で新規不登校の未然防止を！ ～発達支持的生徒指導の充実～

右図の通り、夏休み明けの9月や大きな学校行事後の11月に、新規不登校が増加する傾向にあります。学校行事も多く心身ともに大きく成長する反面、バランスも崩しやすい時期です。組織的な児童生徒支援を引き続きお願いします。

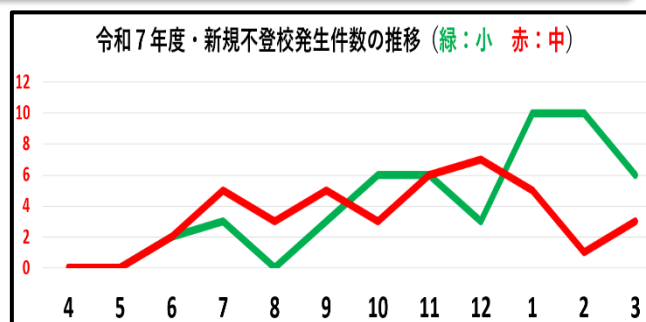
【新規不登校の未然防止に向けた重点的対策】

★ 普段の授業で「発達支持的生徒指導」を！

学校行事によるプレッシャーを感じる児童生徒も少なくありません。特別な行事だけでなく、普段の授業から「安心して意見を言える雰囲気づくり」「互いのよさを認め合う声かけ」等、自己肯定感を育む「発達支持的生徒指導」の充実をよろしくお願いいたします。

★ 休み始めこそ「組織的対応」を！

不登校対策は、初期段階の迅速な対応も重要です。不適応状況が起こり始めたときに、どの段階で、誰が、どのように支援するのか、早期発見・早期対応の組織的対応を確認しましょう。連続して3日休んだら家庭訪問をする、休み始めの段階から学年や学団で情報共有する、一人一台端末も活用しながら定期的にアンケートを実施する、状況が深刻化する前に市町村教委や専門職に相談する等、具体的な組織的対応をお願いします。



【図 令和7年度管内新規不登校児童生徒発生件数（左：人数 下：月）】

岩手県小・中学校教育課程地区別協議会（宮古地区）

宮古西中学校を会場に7月30日（木）中学校、31日（金）小学校の教育課程協議会が開催されました。112名（小学校 64名、中学校 48名）参加のもと、初めに各教科等共通となる行政説明を行い、その後、各教科等の内容について、協議・演習を交えながら行いました。

現行の学習指導要領が実施となって、小学校は7年目、中学校は6年目となります。今年度の協議会は、令和6年度から8年度までの、3年計画で実施する最終年度となります。

本協議会は、「児童生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力の確実な育成に向け、必要な講義や演習及び研究協議を行い、子どもを主語とした授業改善の一層の推進を図る。」ことを目的とし、3年間、次の3点についてお伝えしてきました。

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ②「指導と評価の一体化」による学びの質の向上
- ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

そして、これを通して「教師主導・一斉指導の授業」から「子どもたちが学びの主体となる授業」への転換を目指してきました。

参観者の感想を見ると、児童生徒の資質・能力の確実な育成に向けた授業改善への意欲の高まりを感じることができました。

【小学校参加者の感想から】

○子どもが主役となる学びや地域・人との出会いの大切さを改めて感じました。各教科とも結び付けながら価値ある学びの機会を創っていきたいです。また、学ぶ内容や方法を明確にしながら、子どもたちに必要な力を育む授業づくりを進めていきたいと思います。

○自分のことを表現することは、どの教科にも共通して大切なことだと感じました。授業ではゴールを明確にし、その過程では仲間と関わりながら学びを深めていくことを意識したいと思います。子どもたちが楽しみながら安心して学べる授業づくりを進めていきたいです。

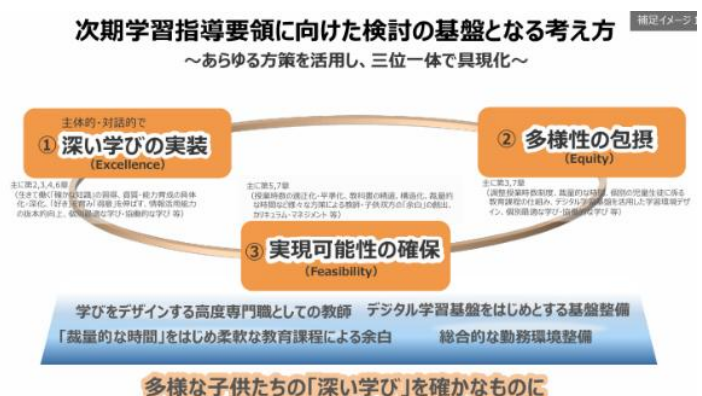
【中学校参加者の感想から】

○時代の変化に伴い求められる資質・能力も変化しており、授業改善の必要性を強く感じました。生徒の興味・関心を生かしながら学びの質を高め、自立した学習者の育成を目指していききたいと思います。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価について学びました。評価の方法だけではなく、生徒の姿を具体的に見取り価値付けることで、その態度そのものを育てていく視点の大切さに気付きました。自己調整しながら学習に取り組む力を育てていきたいと思います。 ※以上、感想より抜粋

※以上、感想より抜粋

ご存じのように、先日開催された中央教育審議会教育課程企画特別部会において、次期学習指導要領等に向けた「審議まとめ（素案）」が示されました。そこでは、「深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」など新しいワードが並んでいますが、これらは全く新しいものではなく、現行学習指導要領の理念や方向性を継承しつつ、その実現をより確かなものにするための具体的な方策や改善の方向性として示されているものです。（右の図は、論点整理より）



今回受講された先生方には、協議会での学びを校内で確実に伝達・共有していただき、各学校における授業改善の取組が一層充実することで、児童生徒一人一人の主体的な学びや資質・能力の育成につながることを願っております。